

サツマイモ栽培における土壌可給態窒素レベルに応じた施肥法

可給態窒素(mg/100g)が3以下では基準施肥, 5程度では無施肥で安定生産が可能である

背景・目的

- ・サツマイモ基腐病の多発生圃場の対策として, 圃場交換は有効であるが, 交換圃場には飼料畑や野菜畑等可給態窒素レベルが高い圃場があり, 高すぎると茎葉が繁茂し, 上いも収量は減少
- ・サツマイモの安定生産のために圃場の地力に応じた施肥が重要

成果の内容

- ・地力窒素(可給態窒素)レベルの異なる圃場で無施肥栽培した青果用サツマイモの収量は, 地力窒素低(1mg)と比べて地力窒素中(3mg)が多収
- ・青果用サツマイモでは地力窒素の少ない圃場でも適正に施肥すると地力窒素中と収量は同等
- ・可給態窒素6mg程度の地力の高い圃場でサツマイモを無施肥栽培すると原料用では減収しないが, 青果用では減収傾向

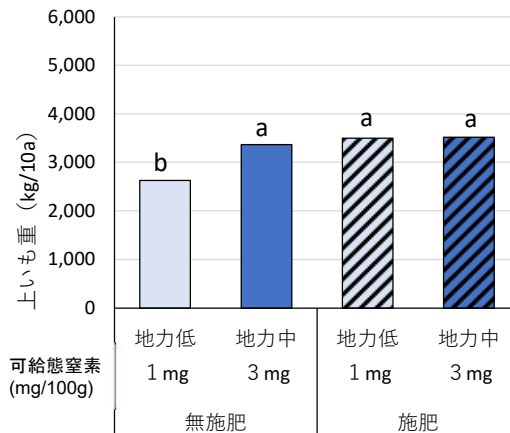


図1 化学肥料施肥及び可給態窒素レベルの違いによる 青果用サツマイモの上いも重

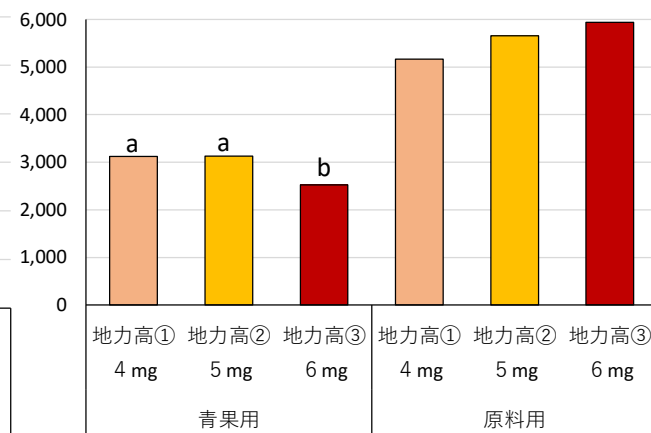
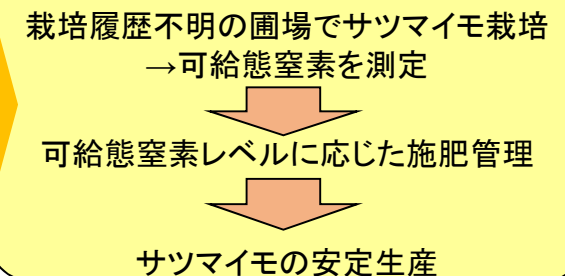
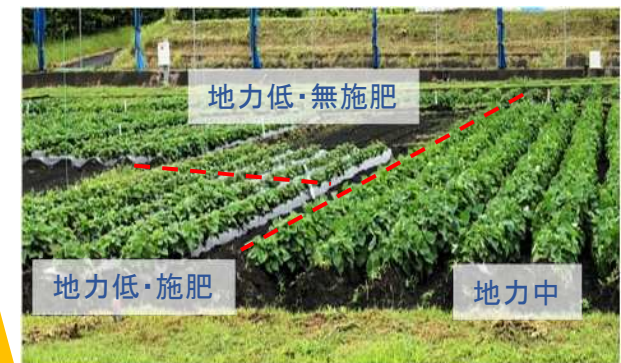


図2 地力高圃場で無施肥栽培した青果用及び原料用サツマイモの上いも重

注1) 地力高区は年間10a当たり牛ふん堆肥4t, 鶏ふん堆肥1t, なたね油かす200kgを5年間施用した圃場
 注2) 品種は, 青果用サツマイモは「べにはるか」, 原料用サツマイモは「シロユタカ」
 注3) 施肥: 牛ふん堆肥1.0t/10a, N-P-K=5-8-15(kg/10a)

期待される効果



○普及対象・範囲
 県内サツマイモ生産者及び技術指導者

鹿児島県農業開発総合センター
 生産環境部土壌環境研究室